

熊本都市圏の新たな3つの高規格道路 「10分・20分構想」

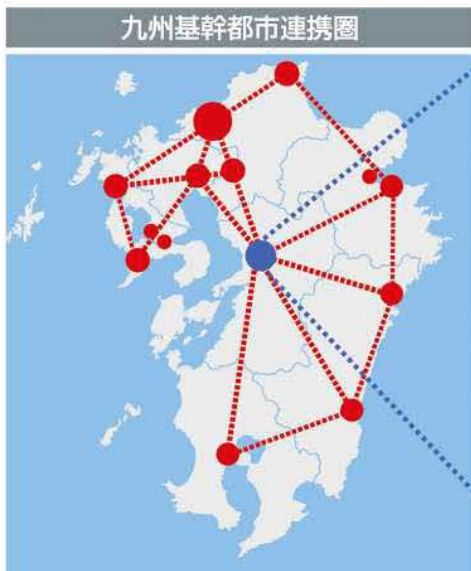
九州の発展につながる“ラストピース”



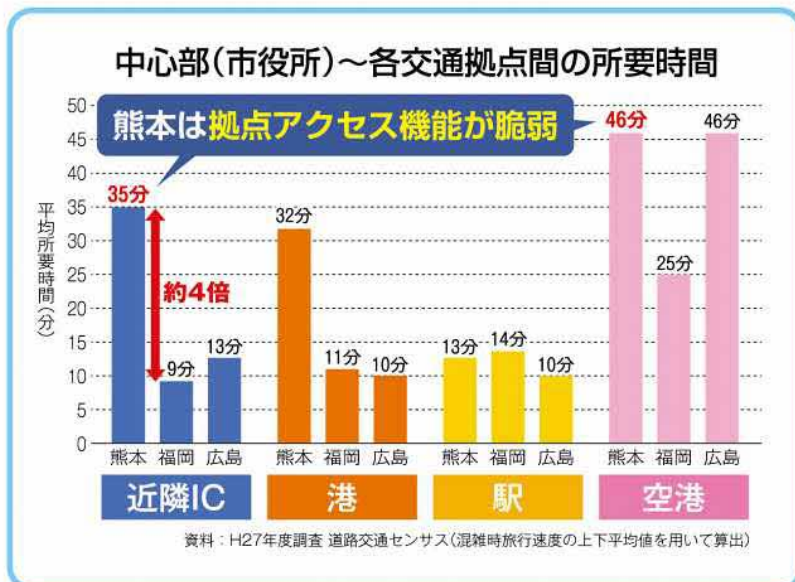
本県と九州各県を結ぶ広域道路ネットワークの整備は着実に進んでいる一方、それらの受け皿となる熊本都市圏では、道路網の脆弱性が指摘されています。

福岡や広島などの都市圏と比較すると、近隣ICや空港など交通拠点までの所要時間は、福岡都市圏が9～25分、広島都市圏が13分～46分であるのに対して、熊本都市圏は35～46分と最大約4倍の時間を要し、経済活動や市民生活に深刻な影響を与えていることから、交通拠点へのアクセス性の改善は喫緊の課題となっています。

他都市との比較(市中心部～交通拠点間の所要時間)



出典：九州圏広域地方計画より



熊本市中心部から近隣ICや空港までの所要時間は・・・
福岡都市圏や広島都市圏と比較して、最大約**4倍**

熊本都市圏の道路網の現状 その2

慢性的な交通渋滞

熊本都市圏では慢性的な交通渋滞が発生しており、熊本市内の平均旅行速度や主要渋滞箇所数は、3大都市圏を除く政令指定都市でワースト1といった不名誉な状況となっています。

この渋滞による住民一人あたりの経済損失額は、熊本県民で約13～17万円/年、熊本市民で約17～24万円/年と非常に深刻であり、熊本都市圏の交通渋滞解消は喫緊の課題です。

国道3号(浄行寺交差点)における交通渋滞



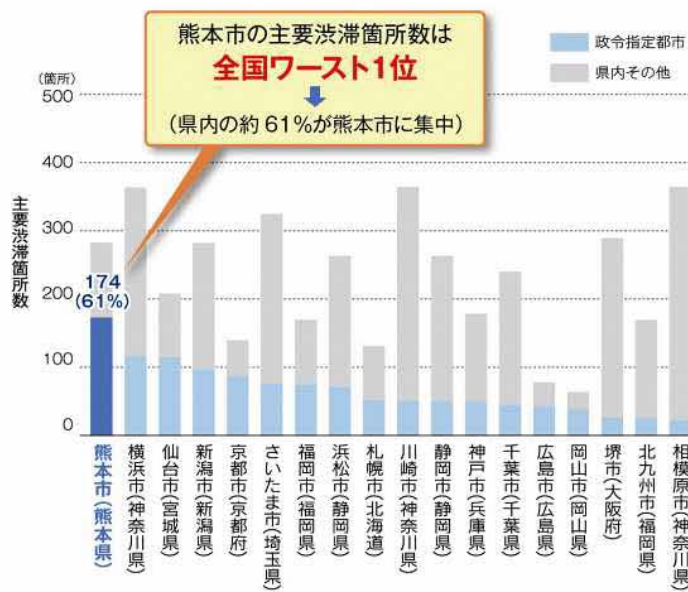
全国政令指定都市の平均旅行速度(DID内)

DID(人口集中地区)：人口密度4千人/km以上の単位地区が隣接して、人口5千人以上となる地区
※各市のDID範囲を対象に、高速道路は除いて集計
※3大都市圏に該当する政令指定都市(大阪、名古屋)及び東京は除いて集計



全国政令指定都市の主要渋滞箇所数・密集率

※3大都市圏に該当する政令指定都市(大阪、名古屋)及び東京は除いて集計



渋滞による1人当たりの経済損失額は…

熊本県民で約**17万円**/年、熊本市民で約**24万円**/年

※熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会において、経済損失額を算出

「10分・20分構想」に関する取組み

令和元年度
～2年度

熊本都市道路ネットワーク検討会

- シンポジウムの開催や県民アンケート(約1,000件)を実施
- 熊本都市圏の課題や将来ビジョンを踏まえて、「新たに必要な道路ネットワーク機能イメージ」をとりまとめ

令和3年 6月

熊本県新広域道路交通計画の策定

- 熊本市中心部から高速道路ICまでを約10分、熊本空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」の誕生

令和3年11月

熊本県・熊本市調整会議 (地方自治法第252条の規定に基づくもの)

- 知事・市長・県議会議員・市議会議員が、新たな3つの高規格道路の実現に向け、「有料道路制度を含めた検討」及び「建設促進活動の推進」に連携して取り組む事を合意

令和3年11月
～令和4年3月

熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会

- 住民や企業向けアンケート(約16,000件)や企業・団体ヒアリング等を実施
- 「10分・20分構想」の実現が与える経済効果等について調査・検討

令和4年 8月

熊本都市圏3連絡道路建設促進協議会の発足

- 早期実現を目的に、熊本都市圏市町村長・議会議員、経済界等による協議会を発足

令和5年11月

第1回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会

- 構想の具体化に向けて、客観的な立場から多角的な視点で助言をいただき、「熊本都市圏3連絡道路有識者委員会」を発足し、「住民参加型の道路計画検討」に着手

令和7年 3月

第2回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会

- 地域や道路の課題、その解決に向けた政策目標の設定及び意見聴取方法を議論

令和7年 5月
～ 8月

地域と道路の現状と課題に関する意見聴取の実施

- 「住民参加型の道路計画検討」の一環として、住民や企業等を対象に意見聴取を実施



令和8年 3月

第3回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会

- 意見聴取の結果を踏まえ、道路整備が果たすべき役割である政策目標の妥当性を確認



令和8年 6月

令和8年度熊本都市圏3連絡道路建設促進協議会総会

- 第3回有識者委員会の開催結果や前年度の要望・広報周知活動などの取り組みについて報告



熊本都市圏の新たな3つの高規格道路「10分・20分構想」

熊本都市圏の道路網の現状を踏まえ、熊本県と熊本市は、令和3年6月に策定した「熊本県新広域道路交通計画」において、熊本市中心部から高速道路インターチェンジまでを約10分、熊本空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」を掲げ、九州のラストピースとなる「熊本都市圏北連絡道路」「熊本都市圏南連絡道路」「熊本空港連絡道路」を新たな高規格道路として位置づけました。

【新規路線】広域道路ネットワーク計画図(拡大版)



熊本城

交通拠点のアクセス強化
広域道路を含めた新たな道路空間の形成
熊本都市圏の物流活性化・企業誘致促進
新たな雇用・観光需要による定住・交流促進

熊本の未来を築く新たな3つの高規格道路

ダブルネットワークによる
救助・救援・避難の円滑化
CO₂排出抑制・
気候変動リスクの抑制

阿蘇

阿蘇くまもと空港

桜町バスターミナル

熊本駅

「10分・20分構想」の実現による効果

「10分・20分構想」の実現による定時性や速達性等の向上は、県民市民のくらしや産業などに様々な効果をもたらし、熊本県はもとより九州の発展への貢献や、SDGsの推進も期待されます。

熊本県域を対象とした経済波及効果は、年間約1,500億円と算出されました。また、災害発生時の売上減少が抑制される効果は、約3,600億円と算出されました。

「10分・20分構想」の実現による効果



平常時・災害時における経済波及効果



※1：熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会において、統計値とアンケート結果を乗じて試算した需要増加額を産業連関分析して算出

※2：日常、主に使用する道路において、1年間通行止めが発生したと仮定した場合の売上減少抑制効果を算出

「10分・20分構想」のイメージ図

